長沼探訪

歴史が語りかけるもの。それは、古人の夢の跡。

岩瀬郡の中ほどに位置する長沼町。東端を須賀川市と接し、会津街道（白河街道）を西に進むと、勢至堂峠を経て猪苗代湖に至る。その道のりをたどれば、長沼を駆け抜けた歴史の一つひとつが、静かに語りかけてくる。

古代の長沼人（びと）が野を駆け、日々の生活を営んだ「宮ノ前遺跡」。その〝夢の跡〟が、江花川支流の磐瀬川上流にあります。これは縄文時代草創期のもので、県内最古の遺跡であることが判明。この一帯からは、他にも多数の遺跡が発掘され、陽当たりよく見晴らしよい丘陵地が、当時の狩猟・採集生活にふさわしい条件を備えていたことが伺えます。また、出土品の多くが関東系に属するものであることから、長沼の里が太古より、関東と奥羽地方の文化・交通の接点であったとの推定もなされています。その後も、幾多の武将の争いが激烈を極めるなど、様々な思惑が行き交う地、長沼――。私たちの祖先は、何を想い、どんな道のりをたどったのでしょうか。古の時代を駆け抜けた人々への想いは尽きません。

護真寺の木造宝冠釈迦如来坐像

護真寺は横田にある臨済宗寺院。釈迦如来坐像は、像高四十三・二㎝の檜材寄木造り、垂下式、彩色の像で後期宋元様式をとどめる。本寺開山の観応二年（一三五一）前後の作と推定されている。（県重要文化財）

本念寺の絵伝

本念寺は長沼字豊町にあって、浄土真宗、京都、東本願寺に属する。もと会津、芦名氏の家臣、新国氏が萱本村を領する時、延文3年（1358）本願寺3代、覚如の法弟、玄栄によって開基され太子寺といった。後に新国氏は中路村に移り、永禄4年（1561）長沼を領し長沼城に移る。太子寺も御附寺として長沼に移り、勝誓寺、本念寺、となる。後に勝誓寺は須賀川に移る。親鸞の行跡が絵巻物として、まとめられ伝絵といった。やがて絵巻物は絵のみが、掛軸となりそれを絵伝といって区別した。本念寺の絵伝は、東本願寺2代、宣如によって描かれたものである。